

タイミング法、人工授精 治療計画説明書

体外受精の場合は移植する受精卵数を1つに限定していますので単胎妊娠が結果となりますが、稀に受精卵が分裂して一卵性双胎妊娠が発生する場合があります。一方、タイミング法あるいは人工授精は受精卵子数をコントロールできないため多胎妊娠による早産を防止するためには排卵誘発剤を使用しない事が原則となります。

当院では原則として自然周期において排卵誘発を行わずにタイミング法と人工授精を行います。

多嚢胞性卵巣、あるいは、無月経、稀に月経が来る方は自然排卵がいつ起こるかわからない事が多いため、月経3日目からレトロゾール1錠 5日間を服用して排卵を期待する場合があります。クロミッドは多数卵胞が発生する場合があるので単一卵胞が育ってくるレトロゾールが当院は第一選択です。一方、これまでレトロゾールは保険適応が無く自費で行ってきましたが、2022年4月から保険適応になるようです。3月30日に関東信越厚生局に電話で問い合わせましたが適応病名が未定のように実際に4月1日から使用できるかどうかは不透明です。いずれにしても成熟卵胞が3つ以上発生した場合には、多胎妊娠を避けるためにタイミング、人工授精を行わずに避妊していただきます。

タイミング法：排卵日前日の性交渉が一番成績が良いと考えています。月経周期が正確に28日型の場合には排卵日が14日目であることが多いため月経13日目のタイミングを狙いますが、前後する方もいらっしゃるの超音波検査とホルモン血液検査で最適な時期を探り指示させていただいております。

人工授精：未処理の精液であればタイミングと同様排卵日前日が人工授精施行日になりますが、精子の洗浄濃縮を行って活発な運動能を示している調整精液は元気な時間が短いため排卵直後から排卵翌日に人工授精を行います。稀に排卵後3日目で妊娠される方もいらっしゃいますが確率は低いです。タイミング法と同じく超音波検査とホルモン血液検査で最適な時期を探り指示させていただいております。

令和4年4月22日 慶愛クリニック 院長 竹原祐志